

多国籍企業学会第 13 回全国大会 自由論題報告 報告要旨

新型コロナ・パンデミックにおける国際展示会産業の変化

Changes in the International Trade Fair Industry in the Covid-19 Pandemic

報告者：関東学院大学経営学部 唐沢龍也

研究目的

本研究は新型コロナ・パンデミックによって、国際展示会産業のビジネス・エコシステムがどのように変化しているのかを明らかにすることにある。国際展示会は主催者、出展企業や来場者（バイヤー）、広告会社、施工会社、機材レンタル会社、人材派遣会社、ケータリング会社・個人の専門職・技術職や運輸・輸送業、ホテル・宿泊業、飲食業、観光業などが関係する裾野の広い産業であり、国際展示会の開催中止が長期間続く影響は極めて甚大であると考えられる。先行研究として Moore (1996) のビジネス・エコシステムの概念を参照し、コアビジネス・拡張された企業・ビジネスエコシステムとして国際展示会産業を整理する。

方法と内容

そのような研究目的を明らかにするために 2 次資料に基づく実態の把握を行う。資料には 2021 年 1 月に発表された世界見本市連盟による 26th UFI Global Exhibition Barometer を使用する。そして、その報告内容を参考にしながら、日本、中国、米国、欧州（イタリア・スペイン・スイス・オランダ）国際展示会関係者に Zoom によるオンラインの半構造化インタビューを実施した。インタビュー結果は木下（2020）による修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）の手続きに従って分析した結果、18 個の構成概念、4 個のサブカテゴリー、3 個のカテゴリーが生成された。

結論

本研究では、新型コロナによる国際見本市産業のビジネス・エコシステムの変化に関して以下の発見事実を導出した。新型コロナの影響で展示会の開催中止によって、業績の悪化は避けられなかった。施工会社・デザイン事務所では、外注する協力会社やフリーの専門職の中で倒産・廃業するケースが日本と欧州では増加している中、重要な外注先・協力会社の選別し、関係維持のための協働を意識的に行うことがわかった。また、対面イベントの再評価がなされコロナ後の展示会のカタチは重要な選ばれた顧客のためのマーケティングの機会となる傾向が強まることが予想される。既に、新型コロナを 2020 年 6 月以降に抑え込んだ中国では出張による本社からの渡航制限により現地拠点の権限拡大がみられる。現地の役割強化はオンラインとリアルのハイブリッド化を進め、新たなビジネス・エコシステムが再生されていくと考えられる。

参考文献

Moore, J.F. (1996) *The Death of Competition: Leadership and Strategy in the Age of Business Ecosystems*, Haper Business, New York.

木下康仁(2020)『定本 M-GTA 実践の理論化をめざす質的研究方法論』医学書院。